

いの流水俳壇

松尾 満津於選

「当季雑詠」

粧いて峰より下りて来し紅葉 刈谷 志津
 (評)平凡に見えて見事な描写である。峯より下りてきた紅葉は、既に全山が華やかにもみじしており、句はその様態を如実に写生している。余分な言い廻しがなくすっきりとした秀句。

稲架解きて谷音近くなりけり川村千図子
 (評)情景のよくわかる句である。山の千枚田であろう、刈り取った稲を乾燥させるための手段として稲架が組み立てられる。近年稲架は山村でも珍らしい存在となつているが狭くて筆数の多い傾斜地では、今でもよく見かける風景である。稲架が襖となつて谷の水音を遮っているが、それが解かれると谷の水音が近くなる。如何にも山村という風景。

病む姉の笑顔もみえて石路は黄に井上 郁子
 (評)病氣療養中の姉に笑顔、次第に快方に向かつている様子が伺える句である。多分長くかかった時間であろうが、快方に一縷の光がさして生れた笑顔「ほんとはよかつたね」と、よろこびの言葉を掛けたい思いである。石路の花の黄が、家族全体によるこびを表現しているように思える。病氣の信号は赤から黄に、そ

して次はみどり、全快で青信号を渡れる日がもうすぐそこに来ている。

椿の実こぼれて固き地面かな 秋田 律子
 (評)椿の実ほ地鶏の卵大の丸い実である。割れると中から種子が三つ四つ出て来る。この句の「こぼれて」は種子で掌から舗装の道路に落ちたのである。何一つ飾ることもなく、見たままの写生で情景のわかる句である。そのむかし戦中戦後を含めた一時期、椿の実の事を「カタシの実」といって椿油を採取し、食用、理髪用に供し搾り糟を洗濯用石けんに代用したこともあつて、当時は大変有用な実として珍重された事もあつたが、若い作者にはまさかそんな郷愁はないであろうと思うが?……蛇足ながら……。

朝茜風やわらかき神の旅 片岡 包女
 トネルの出口半円紅葉濃し 間 浩太
 コケラ葺き続く町並初紅葉 友草 水月
 老ゆるほど姉似と言われ柿吊す 中野 好子
 積み上げし新藁匂ふ牛舎かな 竹崎 光子
 小春日や介護施設のティータム 岡本とも子
 生姜握る蓑に日差しを背負いつつ 川村 博子
 人恋ふや故郷へ流るる秋の雲 大川 節弥
 敷きつめし銀杏落葉の札所かな 川上こよね
 冬蝶の赤信号を渡りけり 森元二美子
 鉄棒のまわり冬野となつていし 東谷 晴男
 薄日射す石神様や木の実降る 津田 久美
 宇治川へ小供引き連れ雁きたる 森岡 照月
 秋の日に呼ぶ事もなき蝶来る 楠目 哲郎
 秋風と追いかけてごっこわらべ唄 小島 良

柿の葉が落ちて熟柿顔揃え 筒井 眉躬
 百舌鳥の声我もひとつの年重ね 浜田美智子
 止んだかと歩めば又もしくぐれ来る 川村 愛
 風呂吹きや嫁の自慢の合せ味噌 伊藤 たみ
 滝壺に落ちて紅葉の浮き沈み 筒井 文
 里人に会えるを待ちて冬に入る 大平 種香
 集い来て健康体操秋深む 弘瀬うき子
 立冬の腰痛如何と聞かれけり 松尾満津於

次 題 「当季雑詠」
 締め切り 毎月15日

投句先

吾北教育事務所 上八川甲2010
 電話 867-2133

今月のごども川柳

お母さんおこるとこわいおにのかお

伊野小4年 吉良 友宏

やめようねよこいちれつのランドセル

伊野小3年 川村 遥

クリスマスサンタがくると楽しいな

伊野小3年 嶋田日向子

えんそくで雨がふらずによかつたな

伊野小2年 森木 なゆ

水のみ元気がでた人すばらしい

伊野小2年 比嘉きょうか

有料広告



内科・リハビリテーション科
 医療法人 光陽会

関田病院

診療時間 月～土(祝・祭日も診療) AM9:00～PM1:00 PM2:00～PM6:00 日曜休診
 いの町3864-1 TEL893-0047(代) HP◆http://www.sekida-hp.com/